学校説明会当日の質疑応答（事後の追記も含む）

Q1 高校内進後に定期テストはありますか？

A　現在内進後の制度設計をしている段階のため、現時点では未定です。しかし、内進生は高校内進後も中学での学びを継続していくことを大切にしていきたいと考えています。

Q2 国際バカロレアの認定校になる予定はありますか？令和９年度に DP 認定校になっている予定はありますか？

A　正式認定に向けて準備を進めています。MYP は令和 10 年度に正式認定を目指しています。DP については、正式認定が下りないと授業自体を行うことができません。MYP 同様に令和 10 年度の認定に向けて準備を進めています。

Q3 グローカルの具体的な事例について教えてもらいたい。

A　本校では、「地域から世界へ、世界から地域へ」、地域と世界を行き来しながら学ぶことを、グローカルな学びと捉えています。総合的な学習の時間では、中学１年から中学２年前期までは地域を題材とした「ローカル探究」に取り組み、中学２年後期から中学３年にかけては「グローバル探究」へと視野を広げます。世界の視点から改めて地域を見つめ直し、自分たちにできることを考える学びへとつなげていきます。また、GCP では英語を使って世界とつながり、異なる文化や考え方に触れながら、自分の考えを伝える機会を設けています。

事後アンケートの質問に関する回答

【学習について】

Q1 英語の授業では、英会話の練習も行っていますか？

A　英語の授業では、英会話を取り入れた授業を行ったり、ALT による授業を行ったりしています。英語の授業に加えて、週に１時間程度ネイティブ教員による GCP の授業を行っています。

Q2 入学時に求められる英語力はありますか？

A　特にありません。入学者選抜の適性検査の内容にも英語は含まれていません。

Q3 英語の授業を見学したが、ついていけるか不安になりました。今年度の生徒は英語の素地はどの程度ありましたか？入学してから始めたのですか？また塾や英会話教室に通っている生徒はどれくらいいますか？

A　生徒により状況はさまざまです。小学生から英語学習に力を入れていた生徒もいれば、小学校での英語学習のみで本校に入学した生徒もいます。塾や英会話教室等に通っている生徒数は把握していません。英語の授業については、１年生の４月の授業と今回参観いただいた９月の授業では難易度は異なります。徐々に教師による英語の使用頻度や難易度を高めています。第２言語を学ぶなかで不安はあると思いますが、生徒の不安に寄り添いながら楽しくわかる授業づくりを心がけています。

Q4 英語学習や探究学習の教材等はどのようなものが使われていますか？教科書は市立中学校と同じですか？

A　各教科の教科書は、市立中学校と同様に国の教科書検定の認可を得た教科書を使用しています。ただし、県立中学校は各校の教育目標をもとに選定を行いますので、西三河の市立中学校と同じ教科書とは限りません。また、GCP は GCP のカリキュラムに沿った教材を使用しています。総合的な学習の時間に行う探究学習では、本校の自作教材を使用しています。

Q5 生徒の評価方法について教えてください。定期考査がない中で生徒はどのような規準で評価されますか？また学期ごとの通知表はありますか？どのような形で生徒にフィードバックがなされるのかを教えてください。

A　本校では、定期考査は実施せず、レポート、ユニットテスト、プレゼンテーション、実技、実験、成果物など、教科の学習内容に応じたさまざまな学習の成果をもとに、単元ごとに評価します。

評価の規準は、単元のはじめに何をどのような規準で評価するのかを生徒に示します。教科ごとに異なり、MYP の各教科の評価規準（ルーブリック）に沿って、知識・技能だけでなく、思考・表現や学んだことを活用する力など、教科の特性に応じた力を多面的に評価します。

また、学習の途中でも、理解の状況や学習の進め方、課題への取り組みなどを確認し、学習をよりよくするためのフィードバックを行います。単元の終了後には、学習の成果や今後伸ばしていきたい点を振り返り、次の学びにつなげるためのフィードバックを行います。

フィードバックの方法も１つではなく、教員との個別の面談や声かけ、授業全体での振り返り、生徒同士のペアやグループでの意見交換など、学習の状況や目的に応じてさまざまな方法で行います。

なお、学期ごとの通知表はなく、年度末に通知表を配付します。

Q6 課題で成績をつけるとのことですが、絶対評価、相対評価のいずれになりますか？

A　各教科の単元ごとに示されるルーブリックに則り、絶対評価で評価をします。

Q7 市立中学校の５段階評価の内申点と比べた時にどのような違いが生じますか？

A　本校では、MYP の各教科の評価規準（ルーブリック）に基づいて、生徒の学習の成果を評価します。そのため、市立中学校で一般的に用いられている 5 段階評価とは、評価の考え方や示し方に違いがあります。MYP では、教科ごとに定められた評価規準に沿って、知識・技能だけでなく、思考・表現、学んだことを活用する力など、教科の特性に応じたさまざまな力を評価します。また、プレゼンテーション、レポート、作品、実技など、学習の中で生徒が実際に示した成果を評価の対象とします。教科や単元によっては、テストを行う場合もあります。そのため、本校の通知表では、5 段階の評定ではなく、MYP の評価規準に基づく評価を示します。（また、MYP の総合評価が文部科学省の 5 段階評定ではどのように対応するかを確認できるよう、参考として換算表を設定しています。）

Q8 勉強の速度は、他の中高一貫校のように早いペースで進むのでしょうか。

A　大学受験を念頭に授業の進度を早めたり、先取り学習をしたりすることはありません。探究的な学習をすすめる中で、高度な内容を身に付けることはあります。

【課外活動について】

Q9 本年度の生徒の課外活動の参加率はどれくらいか。

A　２割程度から５割以上の参加など日によってさまざまです。あくまでも自主的な活動の時間なので、生徒の参加希望によります。

Q10 課外活動の位置付けについて教えてください。特に校外や休日のグループ活動は学校の授業の一環として行われますか？保護者の付き添いが必要ですか？

A　課外活動は、授業ではなく６限終了後から最終下校時刻までの学校管理下での時間に生徒が自主的に探究活動などを行う活動です。時間外の校外での課外活動や、休日の課外活動は設定していません。時間外の校外での活動や、休日の活動については、保護者の方の付き添いが必要となる場合があります。

Q11 課外活動はどのように実施されていますか？

A　生徒の自主的な活動の時間のため、活動の有無、内容等は生徒の自主性に任せています。業後から最終下校時刻まで活動を行うことができます。

Q12 課外活動があると、帰宅時間は不明ということになりますか？

A　課外活動は最終下校時刻までです。最終下校時刻は、16:45（冬期は 16:30）です。最終下校時刻を過ぎて課外活動を行うことはありません。

【その他（附属中学校に関わること)】

Q13 授業で不足している探究時間を補うためのもの（補習や発展学習など）のみですか？あるいは、生徒が主体となって活動する同好会のようなものはありますか？または今後予定していますか？

A　補習や発展学習は行いません。課外活動の時間に、各教科の課題や探究活動を行うことはあります。また、スポーツなどの活動を行う同好会などを設置する予定はありません。

Q14 在校生で刈谷市から来ている人はどれくらいいますか？

A　正確な人数は、個人情報保護の観点から控えさせていただきますが、若干名います。

Q15 行事について　体育祭や文化祭は中学校としては行わず見学のみですか？　また市立中学校で行われる合唱コンクールや立志式、運動会、マラソン大会、茶摘みなどもありませんか？

A　行事については、まだ検討段階です。西尾高校の体育祭、文化祭については、今後参加することを前提に検討を進めています。その他の行事ついては現時点では説明会で示した通りですが、今後も生徒のよりよい成長につながる行事を実施していこうと考えています。

Q16 家から学校までの交通の便が悪く、登下校に不安があります。小学校は徒歩通学、もし附属中学に入学できることになれば、30 分以上自転車に乗ることになります。登下校は公共交通機関、徒歩、自転車ということですが、交通の便が悪い家庭は、どのように登下校していますか？

A　登下校の方法については各家庭での判断となります。自転車と公共交通機関を合わせて使用したり、バスと電車を合わせて使用したりするなど、各家庭の実情に合わせて選択していただくことになります。

Q17 実行委員の設置はありますか？また、今後発足を予定・検討している実行委員があれば教えてください。

A　行事などの実行委員を設置することはあります。実行委員とは少し異なるかもしれませんが、来年度からは、生徒会を発足する予定です。

Q18 男女比率はどの程度ですか？

A　決まった男女比率はありません。あくまでも入学者選抜の結果によります。参考までに、現在の１年生の男女比率は約１：１です。

Q19 PTA 活動はありますか？

A　あります。西尾高校の PTA の中に附属中学校委員会が設置されています。主に、附属中に関わる行事等を担っていただきます。来年度以降のことは、今年度の役員・理事の方と具体的な活動について検討を行っています。

Q20 自治体や企業や NPO など、どこがどの地域で行った事例でも良いので、グローカルの一般的な事例を知りたいです。グローカルを具体的に理解しないと、目指す人物像がどのような行動をしたり、どのようなフィールドで活躍できたりするのか、もう少し具体的にイメージできるようになると思います。

A　グローカルな取組には、例えば、地域の魅力や課題を世界とつなげ、海外の視点や知見を地域に生かす取組があります。

北海道釧路市では、タイ人ボランティアが、タイ人の視点から釧路の自然や文化の魅力を捉え、タイ語での情報発信や旅行商品の開発など、地域の観光振興に取り組みました。これは、海外の視点を地域の魅力の再発見や発信に生かした例です。

また、奈良県では、2026年にセネガル・ケニアの行政官を受け入れ、奈良県の地方行政や産業振興、地域資源を生かした地域づくりについて学ぶ機会を設けました。同時に、奈良県職員や県内企業も、アフリカの行政現場の経験や視点を学び、地域と海外が互いの知見を持ち寄って学び合う取組となっています。

このように、グローカルとは、地域から世界へ発信するだけでなく、世界から得た視点や知識を地域に生かし、地域と世界が互いに学び合いながら、新たな価値や課題解決につなげていくことだと考えることができます。

【内進後の西尾高校について】

Q21 高校進学後は部活動に入ることは可能ですか？また大会など学校から出場はありますか？

A　高校進学後は、部活動への入部は生徒の希望に合わせて可能です。大会等への参加については、附属中学校からの参加はありません。

Q22 高校を他校へ進学することは可能ですか？その場合の基礎学力は市立中学の受験生と比べて各教科の習得面で劣る懸念はありますか？

A　やむを得ない場合は可能ですが、愛知県が導入する中高一貫校は、中高６年間の継続した学びができることが特徴です。そのため、原則、６年間の学びをしていくことを求めます。また、教科学習は、市立中学校と同様に検定教科書を使用して授業を行います。また、基礎学力の定着に向けた学習指導も丁寧に行っていきます。

Q23 高校から西尾高校からへ一般入学した生徒が2年生時点で探究類型に移動することは可能ですか？

A　現在は、高校入試で入学した生徒は普通類型、附属中学校からの内進生は原則として探究類型に進むことを基本として検討しています。普通類型と探究類型では高校1年次から履修する科目や学習内容が異なるため、高校2年生から類型を変更できるかについては、変更の可否や条件を含めて現在検討中です。

Q24 内進生と外進生で高１の「類型・コース」は原則別々になるとのことですが、クラスは内進・外進の混合という理解でいいですか？内進生と外進生が早期に馴染み、交流できる環境や工夫があるかを知りたいです。

A　高校での具体的なホームルーム編成や、通常の授業で内進生と高校入試で入学する生徒がどのように学ぶかについては、現在検討中です。一方、高校2年生以降の「総合的な探究の時間」では、類型に関係なく生徒が一緒に学ぶ形を予定しています。また、学校行事、部活動、生徒会活動などでも交流し、同じ西尾高校の生徒として学校生活を送る環境をつくっていきます。

Q25 高校進学時に、LAコースとDPコースに進むと説明がありましたが、どちらのコースも人数制限は無く、希望通りに進学できますか？また、資料には、文系・理系コースにも薄く矢印がありますが、普通類型になることもありえますか？

A　LAコース・DPコースの人数や選択方法については、現在検討中です。そのため、現時点では、特にDPコースについては希望者全員が必ず希望したコースに進めるとは決まっていません。

附属中学校からの内進生は、高校1年次にMYP5（MYP最終学年）のカリキュラムがあるため、原則として探究類型に進みます。その後、高校2年生からLAコースまたはDPコースへ進むことを基本として検討しています。資料に示した普通類型への進路については、類型変更が可能となる条件や方法を含め、現在検討中です。詳細が決まりましたら改めてお知らせします。

Q26 大学入試が不安になりました。文系、理系に当てはまらないと受ける大学が限られてくるのでしょうか？

A LA コースは、文系・理系のどちらか一方に偏るのではなく、幅広い教科を学び、それぞれの知識や考え方をつなげながら学ぶことを大切にするコースとして設計しています。文系・理系双方の大学進学を想定し、できるだけ幅広い大学・学部の進路に対応できるよう、現在教育課程を検討しています。具体的な履修科目や進路への対応については、教育課程が確定した段階で改めてお知らせします。

Q27 将来、理系大学への進学を考えています。DP コース、および LA コースに所属した場合でも、選択科目等によって、普通コースの理系と同等の学習（数学Ⅲや、物理・化学に特化したカリキュラムの選択など）をすることは可能ですか？

A　LA コースは、日本の高等学校の教育課程を基本としており、数学Ⅲや物理・化学も履修できるよう設定する予定です。文系・理系のどちらか一方に偏らず幅広く学びながら、文系・理系双方の大学進学にできるだけ対応できる教育課程を現在設計しています。DP コースでは、日本の「数学Ⅲ」「物理」「化学」と同じ科目構成ではなく、IB 独自のカリキュラムに基づいて学びます。日本の高校で学ぶ内容と重なる部分もあれば、より発展的な内容を扱う部分もあります。